

氏 名	須 藤 容 章 す どう やす あき
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	論 医 博 第 833 号
学位授与の日付	昭 和 55 年 5 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	先天奇形手における血管の走行に関する研究 —その発生学的意義について—

論文調査委員 (主 査) 教 授 一 色 信 彦 教 授 星 野 一 正 教 授 山 室 隆 夫

論 文 内 容 の 要 旨

最近10年間に京都大学医学部附属病院整形外科を受診した手の先天奇形症例は367例453手である。このうち70例74手に対して血管造影を施行し、これらの症例について発生学的に発達史が明瞭となっている Senior, Singer の発達段階の観点からその発生時期を検討した。その結果は Swanson のいう failure of formation of parts, failure of differentiation, duplication は多少の差異は認められるものの、発生学的には排卵後日齢48日～52日の間に生じたものと推論され、overgrowth, congenital constriction band syndrome は排卵後日齢52日以後に発生したものと考えられた。一方, generalized skeletal abnormalities における手の血管像は、それぞれの手の変化に応じて発生学的に種々の段階のものが含まれていることが明らかとなった。これは今までに報告されている実験動物に発生した四肢奇形の発生時期ともほぼ一致している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

手の先天奇形367例, 453手を集計し、そのうち70例, 74手に血管造影を行った。この74手の中にはほとんどあらゆる形の先天奇形が含まれており、その数においても世界の文献上で最も多い。これらの先天奇形手における血管像を解説、分類するとともに、発生学的に発達史が明らかにされている Senior, Singer の手の血管発達段階を基準として奇形手の発生時期を推論した。その結果, Swansonの云う部分的形成障害, 分化障害, 重複奇形は発生学的に排卵後日齢48～52日の間に生じたものと推論し、過成長や絞扼輪症候群は排卵後日齢52日以後に発生したものと推論した。一方, 骨系統疾患における手の奇形ではそれぞれの手の変化に応じた種々の段階のものが含まれていることを明らかにした。また, 合指症や裂手症の場合は外観上は全く同一形態を呈していても血管の走行からみると、二つの異なった型がある事を明らかにした。

以上の見解は今迄に報告されている実験動物に発生した四肢奇形の発生理論ともよく一致している。

本研究は手の先天奇形の発生学的な分類を行う上に寄与するところが多い。

したがって本論文は医学博士の学位論文として価値あるものと認める。